

新大曲仙北広域中央し尿処理センター施設整備事業に係る事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）は、大曲仙北広域市町村圏組合（以下「組合」という。）が令和4年4月11日に公表した「新大曲仙北広域中央し尿処理センター施設整備事業」の総合評価一般競争入札に係る事業者提案について、基礎審査を実施後、技術提案書及び入札価格について定量化審査により総合的に審査を行った。

組合は、選定委員会による審査の結果を踏まえ、優先交渉権者を決定したので、選定委員会における客観的な評価の結果を審査講評として公表する。

令和4年11月30日

大曲仙北広域市町村圏組合 管理者 老松博行

新大曲仙北広域中央し尿処理センター
施設整備事業
審査講評

令和4年11月

新大曲仙北広域中央し尿処理センター
施設整備事業に係る事業者選定委員会

目 次

第1章 事業概要	1
1 事業名称	1
2 施設の概要等	1
3 事業期間等	1
4 事業内容	1
5 業務範囲	1
第2章 審査方法等	3
1 事業者選定の方法	3
2 優先交渉権者選定までの経過	3
3 選定委員会の設置	3
4 選定委員会の開催経過	3
5 優先交渉権者選定の手順	5
6 審査手順	6
第3章 最優秀提案者選定結果	9
1 資格審査	9
2 提案書の基礎審査	9
3 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング	9
4 入札価格の定量化審査	13
5 総合評価値の算出	14
6 最優秀提案者の選定	14
第4章 総評.....	15

第1章 事業概要

1 事業名称

新大曲仙北広域中央し尿処理センター施設整備事業（以下「本事業」という）

2 施設の概要等

(1) 名称

・大曲仙北広域中央し尿処理センター

(2) 建設予定地

項目	概要
所在地	秋田県大仙市花館字大戸下川原 3-24 他
敷地面積	約 4,400m ²

(3) 施設の概要

施設の種類	概要	
汚泥再生処理センター	処理方式	水処理設備：前脱水＋希釈＋下水道放流方式 資源化設備：助燃剤化方式
	処理能力	計画処理量：136kL/日 （し尿：36kL/日、浄化槽汚泥 89kL/日、有機性廃棄物（農業集落排水施設汚泥）11kL/日）

3 事業期間等

事業期間等は、以下のとおりである。

事業期間：特定事業契約本契約成立日から令和 22 年（2040 年）3 月 31 日までの約 17.5 年間とする。

設計・建設期間：特定事業契約本契約成立日から令和 7 年（2025 年）3 月 31 日とする。（本施設の竣工：令和 7 年（2025 年）3 月 31 日とする。）

運営・維持管理期間：令和 7 年（2025 年）4 月 1 日から令和 22 年（2040 年）3 月 31 日とする。

4 事業方式

本事業は DBO（Design：設計、Build：建設、Operate：運営）方式により実施する。

組合は本施設の設計・建設及び運営・維持管理に係る資金を調達し、本施設を所有する。なお、本施設の設計・建設については、循環型社会形成推進交付金の対象事業として実施する予定である。

落札者の構成員、協力企業を選定事業者（以下、「事業者」という。）として、組合の所有となる本施設の設計・建設業務及び運営・維持管理業務に係る本事業を一括して行うものとする。

組合は本施設を 30 年以上にわたって使用する予定であり、事業者は 30 年以上の使用を前提として本業務を行うこととする。

5 事業範囲

事業者が行う本事業の業務範囲は次のとおりである。

(1) 設計・建設業務

ア 建設事業者は、組合と締結する建設工事請負契約に基づき、本施設の設計・建設業務を行う。また、本事業を行うために必要な許認可の取得を行う。

イ 建設については、土木及び外構工事、建築物及び建築設備工事、機械設備工事、電気計装設備工事、配管工事及びその他の関連工事を行う。

ウ 工事範囲の詳細は、要求水準書【設計・建設工事編】（別添資料 1-1）を参照すること。

エ 建設事業者は、本施設の建設等に伴って発生する建設廃棄物等の処理・処分及びその他の関連業務、計画通知等の手続関連業務、本施設の試運転及び引渡性能試験を行う。

(2) 運営・維持管理業務

ア 運営事業者は、組合と締結する運営・維持管理業務委託契約に基づき、処理対象物（し尿、浄化槽汚泥及び農業集落排水施設汚泥）を受け入れ、要求水準書【運営・維持管理業務編】（別添資料 1-2）に規定する要求水準を満足する適正な処理を行う。なお、その際に、本施設の運営・維持管理業務として受付・受入管理業務、運転管理業務、用役管理業務、維持管理業務、環境管理業務、情報管理業務、資源物・残渣物管理業務、その他関連業務等を行う。

イ 運営事業者は、本施設を運転することにより発生したし渣及び沈砂を施設内で適正に処理し、組合が指示する施設まで運搬を行う。

ウ 運営事業者は、本施設の見学希望者等については組合と連携して適切な対応を行う。

第2章 審査方法等

1 入札の方法

入札の方法は、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の10の2に規定する総合評価一般競争入札方式により実施した。

2 落札者選定までの経過

落札者選定までの経過は、表1のとおりである。

表1 落札者選定までの経過

日 時	内 容
令和4年 4月 11日 (月)	入札公告、入札説明書等の公表
令和4年 4月 11日 (月) ～ 4月 25日 (月)	入札説明書等に関する質問受付 (第1回)
令和4年 4月 18日 (月) ～ 4月 19日 (火)	現地見学会
令和4年 5月 13日 (金)	入札説明書等に関する質問回答 (第1回)
令和4年 5月 13日 (金) ～ 5月 27日 (金)	参加表明書及び資格審査申請書類の受付
令和4年 6月 3日 (金)	資格審査結果の通知
令和4年 6月 3日 (金) ～ 6月 9日 (木)	入札説明書等に関する質問 (第2回) の受付
令和4年 6月 22日 (水)	入札説明書等に関する質問回答 (第2回)
令和4年 7月 25日 (月)	入札提案書類の受付期限
令和4年 10月 3日 (月)	入札提案書類に関するヒアリング、審査
令和4年 10月 3日 (月)	開札
令和4年 10月 3日 (月)	最優秀提案者の選定
令和4年 10月 31日 (月)	落札者の決定
令和4年 11月 17日 (木)	基本協定締結

3 選定委員会の設置

本事業の事業者選定に当たり、提案審査は公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学歴経験者等8名により構成される新大曲仙北広域中央し尿処理センター施設整備事業に係る事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）を設置し、審査を行った。

[委員の構成] (第1回、第2回委員会)

委員長	柴山 敦	国立大学法人 秋田大学大学院 国際資源学研究科 教授
副委員長	増田 周平	独立行政法人 国立高等専門学校機構 秋田工業高等専門学校 創造システム工学科 土木・建築系 准教授
委員	舩谷 祐幸	大仙市 総務部長
委員	和田 義基	大仙市 市民部長
委員	今 和則	大仙市 建設部長
委員	本間 和彦	美郷町 主幹兼総務課長
委員	藤田 信晴	美郷町 主幹兼住民生活課長
委員	小松 英昭	大曲仙北広域市町村圏組合 副管理者

[委員の構成] (第3回、第4回委員会)

委員長	柴山 敦	国立大学法人 秋田大学大学院 国際資源学研究科 教授
副委員長	増田 周平	独立行政法人 国立高等専門学校機構 秋田工業高等専門学校 創造システム工学科 土木・建築系 准教授
委員	福原 勝人	大仙市 総務部長
委員	谷口 藤美	大仙市 市民部長
委員	佐々木 英樹	大仙市 建設部長
委員	高橋 穰	美郷町 主幹兼総務課長
委員	木村 英彰	美郷町 住民生活課長
委員	小松 英昭	大曲仙北広域市町村圏組合 副管理者

4 選定委員会の開催経過

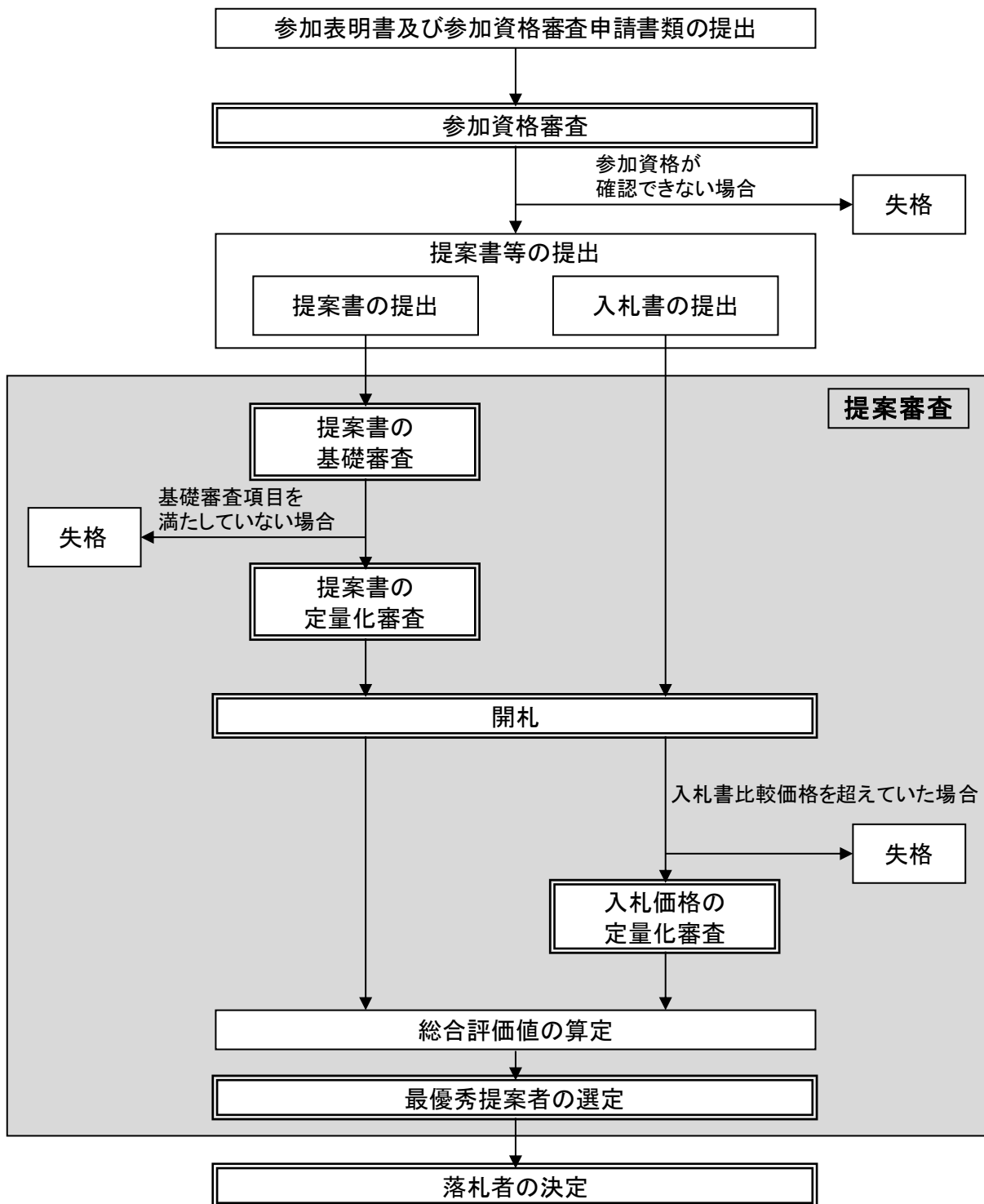
本事業の事業者選定における選定委員会の開催経過は、表2のとおりである。

表2 選定委員会の開催経過

日 付	内 容
令和4年 1月 20日 (木)	第1回選定委員会 (事業概要と委員会スケジュールに関する説明、実施方針(案)の説明、入札公告書類(入札説明書、落札者選定基準等)に係る審議)
令和4年 2月 21日 (月)	第2回選定委員会 (入札公告書類(入札説明書、落札者選定基準等)に係る審議)
令和4年 8月 25日 (木)	第3回選定委員会 (提案書の基礎審査、提案内容に係る意見交換)
令和4年 10月 3日 (月)	第4回選定委員会 (事業者ヒアリング、提案書の定量化審査、開札、入札価格の定量化審査、最優秀提案者の選定、審査講評の審議)

5 落札者選定の手順

落札者選定の手順については、図1のとおりである。



※最優秀提案者を選定する委員会の事務は図中網掛け部分

図1 落札者選定の手順

6 審査手順

(1) 参加資格審査

参加資格審査は、参加表明書及び参加資格審査申請書の提出書類により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件を満たしていることを事務局において確認した。

(2) 提案審査

ア 提案書の基礎審査

提案書に記載された内容が、次に掲げる基礎審査項目を満たしていることを確認した。

- (ア) 提出された提案書等が全て揃っていること。
- (イ) 提案書の内容が要求水準書に示す要求水準をすべて満たしていること。
- (ウ) 入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件について違反のないこと。
- (エ) 提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。

イ 提案書の定量化審査

(ア) 審査項目及び配点

選定委員会は、表3に示す審査項目及び配点に対し、提案書等に記載された内容について審査した。

表3 審査項目及び配点

定量化 審査	審査項目			No.	配点
	大項目	中項目	小項目		合計
<提案書の定量化審査>					60点
1 事業計画に関する事項					10点
(1)事業実施の基本方針					2点
① 基本方針					1 2点
(2)環境への配慮					6点
① 環境負荷低減対策					2 2点
② 環境教育					3 2点
③ 資源循環の推進					4 2点
(3)災害時対策					2点
① 災害時の対応					5 2点
2 設計・建設工事に関する事項					32点
(1)施設全体計画					8点
① 施設配置計画、屋外(車両)動線計画					6 4点
② 機器配置計画、屋内(作業)動線計画					7 4点
(2)施設建設工事					8点
① 工事工程及び工事実施体制					8 4点
② 工事期間中の安全対策及び周辺対策					9 4点
(3)施設性能に関する考え方					8点
① 処理の安定性、臭気対策					10 4点
② ライフサイクルコストの低減策					11 4点
(4)地域経済活性化					8点
① 地域貢献					12 8点
3 運営・維持管理に関する事項					18点
(1)運営・維持管理体制					4点
①運営・維持管理体制					13 4点
(2)長寿命化対策					4点
① 設備・機器の長寿命化対策					14 4点
(3)維持管理性と作業安全性の確保					4点
① 維持管理性と作業安全性の確保					15 4点
(4)地域経済活性化					6点
① 地域貢献					16 6点
<入札価格の定量化審査>					40点
1 入札価格に関する事項					40点
(1)設計・建設業務に係る対価					15点
(2)運営・維持管理業務に係る対価					25点
<総合評価>					100点

(イ) 技術提案書の定量化審査に関する得点化方法

提案を求めている審査項目においては、表 4 に示す 5 段階評価により審査を行い、各委員が個別に行った評価の平均値により得点化を行う。

なお、選定委員会は、最終的な審査を下す前に、提案書に関するヒアリングを実施し、提案内容の確認等を行う。

表 4 審査基準及び得点化方法

評価	評価基準	点数化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	優れている	配点×0.50
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	優れているとは認められない／要求水準を満たす程度	配点×0.00

ウ 入札価格の定量化審査

入札価格の定量化審査においては、提案価格について、表 5 得点算定式により、入札価格を構成する設計・建設業務に係る対価及び運營業務に係る対価のそれぞれを得点化した。

なお、定量化限度額は、入札書比較価格を構成する設計・建設業務に係る内訳額（消費税及び地方消費税を含まない）に対して事前に設定した価格であり、開札時に発表した。

表 5 提案価格の得点算定式

<p>○入札価格を構成する設計・建設業務に係る対価</p> <p>【最低入札価格（設計・建設業務に係る対価） > 定量化限度額の場合】</p> $\left[\text{当該入札参加者の入札価格（設計・建設業務に係る対価）の定量化審査の得点} \right] = 15 \text{点} \times \left(\frac{\text{最低入札価格（設計・建設業務に係る対価）}}{\text{入札価格（設計・建設業務に係る対価）}} \right)$ <p>【最低入札価格（設計・建設業務に係る対価） ≤ 定量化限度額の場合】</p> $\left[\text{当該入札参加者の入札価格（設計・建設業務に係る対価）の定量化審査の得点} \right] = 15 \text{点} \times \left(\frac{\text{定量化限度額}}{\text{入札価格（設計・建設業務に係る対価）}} \right)$ <p>※入札価格（設計・建設業務に係る対価）が定量化限度額以下の入札参加者の得点 = 15 点満点 ※入札価格（設計・建設業務に係る対価）が設計・建設業務の入札書比較価格を超過した場合は得点をゼロ点とする。</p> <p>○入札価格を構成する運営・維持管理業務に係る対価</p> $\left[\text{当該入札参加者の入札価格（運営・維持管理業務に係る対価）の定量化審査の得点} \right] = 25 \text{点} \times \left(\frac{\text{最低入札価格（運営・維持管理業務に係る対価）}}{\text{入札価格（運営・維持管理業務に係る対価）}} \right)$ <p>※入札価格（運営・維持管理業務に係る対価）が運営・維持管理業務の入札書比較価格を超過した場合は得点をゼロ点とする。</p>
--

エ 総合評価値の算出

表 6 に示す算定式により、各入札参加者の総合評価値を算出する。

表 6 総合評価値の算出方法

$\left[\text{当該入札参加者の総合評価値} \right] = \left[\text{当該入札参加者の提案書の定量化審査の得点} \right] + \left\{ \begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格の定量化審査の得点} \\ \left[\text{入札価格（設計・建設業務に係る対価）の定量化審査の得点} \right] + \left[\text{入札価格（運営・維持管理業務に係る対価）の定量化審査の得点} \right] \end{array} \right\}$

第3章 最優秀提案者選定結果

1 資格審査

令和4年4月11日に入札公告を行い、令和4年5月27日まで参加表明書及び資格申請書類を受け付けたところ、以下の4グループから申請があった。

組合は、参加資格の確認を行い、令和4年6月3日に4グループの代表企業に対し、参加資格を有することを書面にて通知した。

表7 参加表明書及び資格申請書類等提出グループ

	あかグループ	あおグループ	きいろグループ	みどりグループ
代表企業	JFE 環境テクノロジー株式会社	住友重機械エンバイロメント株式会社 東北支店	水ingエンジニアリング株式会社 東北支店	日立造船株式会社 東北支社
構成員	—	—	水ingAM株式会社 東北支店	浅野アタカ株式会社 北日本支店
協力企業	—	—	高吉建設株式会社 株式会社日仙電機	—

なお、選定委員会による審査にあたっては、審査の公平性を期すため、提案書等すべての書類において入札参加者の企業名は伏せ、表7のグループ名で識別して審査を行った。

2 提案書の基礎審査

令和4年7月25日に入札参加資格を有する4グループより入札提案書類が提出された。

提出された入札提案書類をもとに基礎審査項目に沿って基礎審査を行った。入札提案書類を提出した4グループは、いずれも組合が要求する水準を満足していること等が確認されたため、基礎審査に合格しているものと認められた。

3 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング

選定委員会は、令和4年10月3日に提案書の定量化審査を行った。審査に際しては、技術提案書に関する入札参加者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施し審査を行った。

定量化審査の審査項目について、適確な提案がなされているかの審査を行い、技術提案書に関する得点化を行った。なお、評価は、組合の要求する水準を満たしたうえで、より優れた提案に対して評価を行う加点方式である。

審査結果を表8に示す。

表8 技術提案書の定量化審査の得点結果

審査項目		No.	配点	あか グループ	あお グループ	きいろ グループ	みどり グループ
大項目	中項目						
1	事業計画に関する事項	-	10点	6.29	6.72	7.50	6.22
	(1) 事業実施の基本方針	-	2点	1.29	1.29	1.21	1.29
	① 基本方針	1	2点	1.29	1.29	1.21	1.29
	(2) 環境への配慮	-	6点	3.79	3.86	4.79	3.72
	① 環境負荷低減対策	2	2点	1.29	1.29	1.36	1.36
	② 環境教育	3	2点	1.14	1.21	1.64	1.36
	③ 資源循環の推進	4	2点	1.36	1.36	1.79	1.00
	(3) 災害時対策	-	2点	1.21	1.57	1.50	1.21
	① 災害時の対応	5	2点	1.21	1.57	1.50	1.21
2	設計・建設工事に関する事項	-	32点	20.71	21.43	21.14	19.85
	(1) 施設全体計画	-	8点	5.00	4.43	5.57	4.29
	① 施設配置計画、屋外(車両)動線計画	6	4点	2.43	2.29	2.86	1.86
	② 機器配置計画、屋内(作業)動線計画	7	4点	2.57	2.14	2.71	2.43
	(2) 施設建設工事	-	8点	4.43	5.00	5.28	4.85
	① 工事工程及び工事実施体制	8	4点	2.29	2.43	2.57	2.14
	② 工事期間中の安全対策及び周辺対策	9	4点	2.14	2.57	2.71	2.71
	(3) 施設性能に関する考え方	-	8点	5.28	5.71	6.00	5.00
	① 処理の安定性、臭気対策	10	4点	2.57	2.71	3.43	2.43
	② ライフサイクルコストの低減策	11	4点	2.71	3.00	2.57	2.57
	(4) 地域経済活性化	-	8点	6.00	6.29	4.29	5.71
	① 地元貢献	12	8点	6.00	6.29	4.29	5.71
3	運営・維持管理に関する事項	-	18点	10.87	11.86	11.92	11.78
	(1) 運営・維持管理体制	-	4点	2.29	2.71	2.71	2.71
	① 運営・維持管理体制	13	4点	2.29	2.71	2.71	2.71
	(2) 長寿命化対策	-	4点	2.29	2.29	2.57	2.43
	① 設備・機器の長寿命化対策	14	4点	2.29	2.29	2.57	2.43
	(3) 維持管理性と作業安全性の確保	-	4点	2.43	2.57	3.00	2.57
	① 維持管理性と作業安全性の確保	15	4点	2.43	2.57	3.00	2.57
	(4) 地域経済活性化	-	6点	3.86	4.29	3.64	4.07
	① 地元貢献	16	6点	3.86	4.29	3.64	4.07
合計		-	60点	37.87	40.01	40.56	37.85

技術提案書に関する各審査項目における講評は、表9のとおりである。

表9 各審査項目の講評

審査項目	講評
1 事業計画に関する事項	
(1) 事業実施の基本方針	
①基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、本事業の目的、地域特性等を踏まえた基本方針が示されている点を評価した。
(2) 環境への配慮	
①環境負荷低減対策	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、周辺環境への影響を踏まえた環境負荷低減対策を提案されている点を評価した。 きいろグループ及びみどりグループは電力によるCO₂排出量削減効果について具体的に提案されている点を高く評価した。
②環境教育	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、環境教育に配慮した計画であり、実現可能な提案である点を評価した。 きいろグループについては、環境教育のビジョンが明確に提案されている点を高く評価した。
③資源循環の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、助燃剤として活用することに配慮した計画である点を評価した。 きいろグループについては、AI技術を用いた制御方法等処理の安定性確保の提案について高く評価した。
(3) 災害時対策	
①災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、災害時の対策について配慮した計画である点を評価した。 あおグループについては、災害対策について意識の高い具体的な提案がされている点を高く評価した。
2 設計・建設工事に関する事項	
(1) 施設全体計画	
①施設配置計画、屋外(車両)動線計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、施設の運用に配慮した施設配置計画、屋外動線計画である点を評価した。 あかグループについては、施設配置計画、屋外動線計画が効率的で優れている点を高く評価した。 あおグループ及びきいろグループについては、屋根の雪対策に配慮されている点を高く評価した。
②機器配置計画、屋内(作業)動線計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、施設の運用に配慮した機器配置計画、屋内動線計画である点を評価した。
(2) 施設建設工事	
①工事工程及び工事実施体制	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、確実な施設整備を達成する工事工程及び工事実施体制である点を評価した。
②工事期間中の安全対策及び周辺対策	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、工事期間中の安全対策及び周辺対策に配慮している点を評価した。

審査項目	講評
2 設計・建設工事に関する事項	
(3) 施設性能に関する考え方	
①処理の安定性、臭気対策	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、処理の安定性、臭気対策に配慮している点を評価した。 きいろグループについては、処理の制御方法等安定性への配慮について高く評価した。
②ライフサイクルコストの低減策	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、ライフサイクルコスト低減に配慮している点について評価した。 あかグループ及びあおグループについては、薬品使用量等の具体的な低減策が提案されている点について高く評価した。
(4) 地域経済活性化	
①地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、建設期間中の地元発注や地元雇用等に配慮した計画である点を評価した。 あかグループ及びあおグループについては、地元貢献の高さを高く評価した。
3 運営・維持管理に関する事項	
(1) 運営・維持管理体制	
①運営・維持管理体制	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、15年間の安定した運営を見据えた運営・維持管理体制である点を評価した。
(2) 長寿命化対策	
①設備・機器の長寿命化対策	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、15年以上の施設安定稼働に配慮した計画である点を評価した。
(3) 維持管理性と作業安全性の確保	
①維持管理性と作業安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、施設稼働期間中の維持管理性と作業安全性を確保している点を評価した。 きいろグループについては、AIを活用した自動監視・制御システム等の維持管理、安全対策を提案している点を高く評価した。
(4) 地域経済活性化	
①地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、運営・維持管理期間中の地元発注や地元雇用等に配慮した計画である点を評価した。 あおグループについては、地元雇用や地元経済への貢献意識に優れた維持管理が提案されている点を高く評価した。

4 入札価格の定量化審査

提案書の定量化審査の得点確定後に、提案書等を提出した各入札参加者及び選定委員会の委員
 立会いのもとで令和4年10月3日に開札を行い、予定価格の範囲内であることを確認した。

選定委員会は、開札結果の報告を受け、入札価格の定量化審査に関する得点化を行った。得点化
 の結果は、表10のとおりである。

なお、入札価格の定量化審査に関する得点化については、表11に示す予定価格及び定量化限度
 額に基づいている。

表10 入札価格の定量化審査の得点結果

	あか グループ	あお グループ	きいろ グループ	みどり グループ
代表企業	JFE 環境テクノロ ジー株式会社	住友重機械エンバ イロメント株式会 社東北支店	水 ing エンジニア リング株式会社 東北支店	日立造船株式会社 東北支社
入札価格（税抜）	3,986,329,820 円	4,713,045,000 円	4,694,739,000 円	5,373,000,000 円
設計・建設業務	2,500,000,000 円	2,670,000,000 円	2,545,000,000 円	2,775,000,000 円
運営・維持管理業務	1,486,329,820 円	2,043,045,000 円	2,149,739,000 円	2,598,000,000 円
入札価格の定量化審査 の得点（40点）	40.00	32.23	32.02	27.81
設計・建設業務 （15点）	15.00	14.04	14.73	13.51
運営・維持管理業務 （25点）	25.00	18.19	17.29	14.30

表11 予定価格及び定量化限度額

	予定価格	設計・建設業務に 係る対価の内訳額	運営・維持管理業務に 係る対価の内訳額
予定価格（税込）	6,387,700,000 円	3,058,000,000 円	3,329,700,000 円
入札書比較価格（税抜）	5,807,000,000 円	2,780,000,000 円	3,027,000,000 円
定量化限度額		2,224,000,000 円	

※定量化限度額は、消費税及び地方消費税額を含まない。

5 総合評価値の算出

令和4年10月3日に定量化審査により算出した「提案書の定量化審査の得点」、「入札価格の定量化審査の得点」を加算して、表12のとおり総合評価値を算出した。

表12 総合評価値の算出結果

入札参加者		提案書の定量化審査の得点 (A) (60点)	入札価格の定量化審査の得点 (B) (40点)	総合評価値 (A) + (B) (100点)
受付グループ名	代表企業名			
あかグループ	JFE 環境テクノロジー株式会社	37.87	40.00	77.87
あおグループ	住友重機械エンバイロメント株式会社 東北支店	40.01	32.23	72.24
きいろグループ	水ing エンジニアリング株式会社 東北支店	40.56	32.02	72.58
みどりグループ	日立造船株式会社 東北支社	37.85	27.81	65.66

6 最優秀提案者の選定

選定委員会は、上記の結果に基づき「あかグループ（代表企業：JFE 環境テクノロジー株式会社）」を最優秀提案者として選定した。

第4章 総評

今回、入札に参加した4グループの提案は、いずれも本事業の目的や各業務の内容について組合が要求する水準を上回る提案内容であった。

4グループにおいては、提案内容が多岐にわたることから、提案書の作成において相当な期間と労力を要したと想定される。そうしたなかで提案をまとめた提案者の熱意及び姿勢に敬意を表するとともに、深く感謝する。

選定委員会は、提案書及び入札価格に対して厳正なる審査を行った結果、JFE 環境テクノロジー株式会社を代表企業とするあかグループを最優秀提案者として選定するに至った。

提案については、全般的に安定した評価であり、特に「施設配置計画の合理性」や「地元貢献」の審査項目において、重点を置いた内容が評価できるとともに、放流量を最も少なくする内容は、経済性の高い提案であった。

選定委員会の審議において、上記の事項を評価する一方、同グループの提案内容に対しては、以下に示す配慮・要望事項が挙げられた。

- ① 資源循環の推進やCO₂削減等環境負荷低減に寄与する施設運営を行うこと。
- ② 本事業は長期にわたるため、住民の声を真摯に受け止め、地域住民との信頼関係の構築に努めること。
- ③ 工期遵守および各年度の出来高確保のため実効性のある工事工程を示すとともに、工事期間中の安全確保や防災対策に配慮した施工に努めること。
- ④ 放流量は最も少ない提案であり、確実に履行するとともに、良質な放流水の水質を保証し、長期にわたるし尿等の適正処理を確実にかつ安定的に継続すること。
- ⑤ 災害時の早期復旧や安全かつ安定的な処理が可能な施設運営を行うこと。
- ⑥ メンテナンス経費が抑制され費用対効果に優れた運営費等を厳守するとともに、地元発注、地元資材の活用及び地元雇用の推進を図って、地元貢献金額を遵守すること。
- ⑦ 施設特有の臭気対策として、連続監視システムと独自の最新技術を生かし、臭気に係る環境負荷低減対策を確実にを行うこと。
- ⑧ 雪害対策としては、適宜対応と示されているが、雪庇等の恒常的な対応にも留意し安全対策に努めること。

最後に、事業期間を通じて組合と同グループが良きパートナーとなり、地域との信頼関係を築きながら本事業を計画的かつスムーズに推進することを希望する。

また、上記の配慮・要望事項について、提案及び契約の公平性を妨げない範囲において本事業をより良いものとするために組合と十分な協議を行い、真摯な対応に努め、今後の事業期間にわたり質の高い公共サービスを提供するよう期待する。

令和4年11月

新大曲仙北広域中央し尿処理センター施設整備事業に係る事業者選定委員会
委員長 柴山 敦